

# ルネサスの決算は空前の好況

## 結成は2010年4月、リストラと闘ったルネサス懇談会

# ルネサス懇

<発行者>

ルネサス関連  
労働者懇談会  
(ルネサス懇)

意見と情報は、  
〒142-0043  
東京都品川区二葉  
2-20-8染野ビル2F  
(電機労働者  
懇談会気付)  
(03) 6421-5323

電機・情報ユニ  
オンへの相談は、



6月26日(日)ルネサス懇第12回総会をメイン会場を電機懇事務所と自宅をスカイプによる中継で開催しました。ルネサス懇発足当時から、会社は数千人規模の早期退職、工場や拠点の閉鎖、人事制度改悪、職場丸ごとの事業所移転など、さまざまナリストラ策を繰り出してきましたので、電機・情報ユニオンとの協力体制のもとで対リストラ活動を展開し、その間に数十人規模の組合員数を増やしなが、大きな実績を上げてきました。

会社経営は長らく厳しい状況が続いていましたが、最近は状況が大きく変わってきています。コロナ禍において半導体は世界的な需要増が続いており、ルネサスも2020年度の下期以降は売上が急拡大をしています。昨年度は9944億円まで増加し、営業利益も3000億円近くに達しました。今年はさらに1兆4000億円程度まで売上が増加する見込みであり、空前の好況となっています。



6月26日(日)ルネサス懇第12回総会をメイン会場を電機懇事務所と自宅をスカイプによる中継で開催しました。ルネサス懇発足当時から、会社は数千人規模の早期退職、工場や拠点の閉鎖、人事制度改悪、職場丸ごとの事業所移転など、さまざまナリストラ策を繰り出してきましたので、電機・情報ユニオンとの協力体制のもとで対リストラ活動を展開し、その間に数十人規模の組合員数を増やしなが、大きな実績を上げてきました。

好況ならば結構なことだと思われるかも知れません。しかしその内実は、国内の衰退を前提とした海外の拡大と言えます。従業員数は2015年以降2万人前後で横ばいを続けていますが、外国企業のM&Aによって海外の人数が増

えている一方で、国内は人員減の一途であり、2021年にはとうとう国内と海外の比率が逆転しました。国内の縮小は人員数だけに留まらず、研究開発投資における海外偏重の配分から、日本サイドの技術力の衰退が特許取得件数の激減となって顕在化しています。総会では、以上のような情勢の確認を行い、出席者で討議を行ない2022年度の活動方針として、これまで3役体制だった組織を見直し、事務局次長のポストを新設し、四役体制に改めることを確認いたしました。さらに、WEB限定版のピラを四役にて持ち回りで作成することで、現在の2倍にとなる2カ月に1回のピラ発行を行っていきます。新たな体制のもと、WEBを通じた情報発信を強化し、コロナ禍における情報発信力を高めていきます。いま半導体を巡る情勢は世界規模の政治、経済、安全保障問題、環境問題などと絡み合い、大変複雑かつ重要となっています。ルネサス懇は、こうした情勢を読み解きながら、労働者ひとりひとりが情勢に振りまわされて無力感から失望することなく、希望を持って仕事に向かえるように、意見の表明や提言等を行っていきます。